

東京・上^{かみ}千^ち葉^ば遺跡

- 1 所在地 東京都葛飾区西亀有一丁目
- 2 調査期間 一九九三年(平5)三月～八月
- 3 発掘機関 葛飾区遺跡調査会
- 4 調査担当者 江上智恵
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 中世～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上千葉遺跡は東京都東部の、下総台地と武蔵野台地とに挟まれた東京低地と呼ばれる沖積低地の微高地上に立地する。



(東京東北部)

本調査では一六世紀の建物や水田、一六世紀後葉から一七世紀前葉にかけての溝で区画された屋敷、一八世紀以降の溝状遺構などが検出されている。
木簡が出土したのは屋敷に関連する一七号溝で、区画溝と考えられる。幅は

二・八～三・六m深さは〇・八～一・二mを測る。この遺構では一七世紀前葉の瀬戸・美濃陶器が出土しており、木簡もこの時期のものと思われる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「萬理」

・「萬理カ」
・「☐ ☐ ☐」

237×25×3 011

両面に墨書されており、いずれも「萬理」の二文字とみられるが、これが何を意味するものかは不明である。
(永越信吾)

